

第4回

資料1

- 検討会議設置要綱 . . . 1
- 検討会議委員名簿 . . . 2
- 主な検討事項 . . . 3
- 第3回検討会議の主な意見 . . . 4

県立高校教育振興検討会議設置要綱

(設置)

第1条 「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」を踏まえ、中学校卒業予定者数の減少が見込まれる中、本県の高校教育を充実するため、「県立高校教育振興検討会議」（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議は、次の事項について検討する。

- (1) 県立高校の再編に関する学校規模・基準に関すること。
- (2) 県立高校の学科・コースの見直しに関すること。
- (3) 様々なタイプの学校・学科等に関すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、県立高校のあり方に関すること。

(組織)

第3条 検討会議は、委員16人以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者、教育関係者、保護者、経済界関係者及び自治体関係者等のうちから、教育長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から1年間とする。ただし、補欠又は増員による委員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 検討会議に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会議を進行し、検討会議を代表する。
- 4 副会長は、会長が指名する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討会議は、教育長が招集し、会長が議長となる。

2 検討会議は、公開する。ただし、会議の公正が害されるおそれがあると認める場合その他公益上必要があると認められる場合は、会長と委員の協議により、これを公開しないことができる。

(アドバイザー)

第7条 専門的立場からの意見を聴くため、検討会議にアドバイザーを置くことができる。

2 アドバイザーは、教育長が委嘱する。

(幹事)

第8条 検討会議に幹事を置く。

- 2 幹事は、富山県教育委員会事務局職員のうちから、教育長が任命する。
- 3 幹事は、検討会議の事務を処理する。

(事務局)

第9条 検討会議の事務局は、富山県教育委員会県立学校課に置く。

(細則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営その他必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和5年6月1日から施行する。

県立高校教育振興検討会議名簿

(令和5年12月22日現在)

(委員15名、五十音順、敬称略)

役 職	氏 名	委 員 の 所 属 等
会 長	品川 祐一郎	トヨタモビリティ富山(株) 代表取締役社長 富山県経営者協会教育委員会 委員長
副会長	鳥海 清司	(大)富山大学 副学長 富山大学学術研究部教養教育学系 教授
委 員	荒井 公浩	富山県私学振興会 副理事長
委 員	池永 美子	富山県中学校長会 副会長
委 員	上田 良美	滑川市教育委員会 教育長
委 員	亀谷 卓朗	富山県高等学校長協会 副会長
委 員	近藤 智久	高岡市教育委員会 教育長
委 員	鈴木 真由美	(大)富山県立大学 キャリアセンター所長 富山県立大学工学部機械システム工学科 教授
委 員	高瀬 幸忠	(株)スカイインテック 代表取締役社長
委 員	田辺 恵子	富山県子どもほっとサロンネットワーク 会長
委 員	中村 総一郎	富山県PTA連合会 会長
委 員	藤重 佳代子	(株)マーフィーシステムズ 代表取締役社長
委 員	松山 朋朗	富山県高等学校PTA連合会 会長
委 員	水口 勝史	立山科学(株) 代表取締役社長
委 員	水口 芳美	水口青玉堂

アドバイザー	青木 栄一	東北大学大学院 教育学研究科 教授
アドバイザー	南部 初世	名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 教授

県立高校教育振興検討会議における主な検討事項

「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」を踏まえ、中学校卒業者の減少が見込まれる中、本県の高校教育の充実に向け検討を進める。

《検討事項》

- ・ これまでの経緯
 - ・ 検討項目の確認、今後の進め方について
- } 第1回
-
- ・ 県立高校の再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について
 - ・ 県立高校の学科やコースの見直しについて
 - ・ 様々なタイプの学校・学科等について
- } 第2回
- } 第3回
・
今回
(第4回)

第3回県立高校教育振興検討会議における主な意見

- 1 日時 令和5年11月6日(月) 午後1時～午後3時
- 2 場所 富山県民会館401号室
- 3 議題 「県立高校の再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について」
「県立高校の学科やコースの見直しについて」
「様々なタイプの学校・学科等について」

4 主な意見

○県立高校の再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について

- ・生徒が学びたい、学んでよかったと思えるためには一定水準の教育の質が必要。学校関係者や全国調査の結果では、4から8学級がよいとされている。現在の基準が適用されるのがよい。例外規定もあり弾力的に運用できるようになっている。
- ・規模だけでなく、学科やコースなど県全体のバランスを見極め学校を配置することが必要。令和2年度の基準を前提とし、必要があれば修正を加えるような捉え方で進めていけばよい。また、これまで通り規模の小さい学校から検討することが必要だろう。
- ・これまで様々議論され、令和2年度の基準が設定されてきた。教員数の確保や生徒が部活動などで仲間たちとともに過ごしたいという気持ちなどを考えての基準であったと思うので、この基準がよい。
- ・これまで通りの基準または、引き上げかと思う。総合的な探究の時間では、生徒が自ら課題を見つけて探究することが求められている。このような多様な学びに对应していくためには、それなりの教員や学校規模が必要。
- ・学校で過ごす時間、同級生や先輩後輩と過ごす時間はとても大切であり、そのためには4学級以上が必要ではないか。学校の歴史や地域性といった話もあるが、数で明確に示すことは大切。規模の小さい学校からというのは、誰もが異を唱えない点だろう。
- ・教育の水準を考えると4学級は最低でも必要。基準を引き上げて幅広く検討する方がよい。その中で、小さい学校を全て統合するのではなく、地域の実情に応じた再編も必要になってくる。
- ・基準を引き上げる必要がある。生徒にとって質の高い教育には、教員の数が必要。また、ある程度の規模のクラス数があることによって部活動等を含め効果がある。ある程度平等性を確保するためには、規模を少し大きめに取っておくのが近道だろう。
- ・10年後、15年後を想定して検討する必要がある。基準を引き上げることで志願状況や欠員状況も十分考慮できる。そういう柔軟性に富んだ考え方を持つべき。
- ・基準を引き上げれば、対象校が限定的にならずに幅広い中から決まるのでよい。
- ・基準を引き下げ3学級以下の学校ができてもいいのではないか。小規模校の良さもあれば、規模が大きい良さもある。数の規模で全て判断するというのは違うと思う。
- ・基準を設けるのはどれも悩ましいが、志願状況や欠員状況を基準にすることについては慎重な検討が必要ではないか。定員割れが起こっていても、その学校・学科がなくなると、本当に困ることが起きてくるのではないかと思う。

○県立高校の学科やコースの見直しについて

- ・工業系では、工業デザインなど女性が入ってもらえるようになることよい。地場産業においてデザインで付加価値を上げていくことを、県内でできるようにしていくことは人材育成の意味においても価値がある。また、食料自給率をどう高めるかという大きな課題がある。重要な産業を伸ばしていくという意味で農業系に力を入れ、先進的な技術を学べるようにする必要がある。
- ・農業科や水産科では、関連する就職や進学者の割合が低い。「このカリキュラムのままでもいいのか」までを含めて検討していかなければならない。
- ・工業科に細かい、いろいろな科があっても「この先には何が待っているのだろう」とよくわからないところがある。一括募集や学科の名称変更があれば「行ってみようか」という気持ちになるのではないか。
- ・中学校、高校の先生方は、生徒が進路選択する時に「この学校のこの学科に行けば、社会とどう繋がることができるか」という社会との接点を伝えなくてはならない。ビジョンが見えれば子どもたちは目を輝かせるだろう。
- ・情報系のことを網羅する基礎学習ができていないと、卒業後に様々な端末に対応できる人材が育たない。情報系の普通科や工業科の中の情報系が増えるとよい。
- ・高校における職業科の役割は変わってきているのではないか。そうであれば、定員の一部を普通科に変更するなど、思い切ったことも必要ではないか。
- ・普通科の割合が低いので、普通科の増加や、職業科の減少をすることで、その割合を正すことが必要。ただし、職業科については、動物を扱う農業科が県内では中央農業高校だけであるというような強みを生かしていく必要がある。単に職業科を削減するのではなく、総合学科や普通科コースで学科の内容をつなげることも大切。

○様々なタイプの学校・学科等について

○全国募集

- ・南砺平高校の郷土芸能部は素晴らしい成績を収めているし、スキー部はオリンピック選手を輩出している。学生寮もあるので前向きに検討してほしい。
- ・郷土芸能部の活動を拝見したが、本当にプロフェッショナルで素晴らしかった。情報発信によって全国の生徒が見に来てくれるといった可能性があればよい。
- ・寄宿舎では週末や長期休業期間に対応できないならば下宿という方法もあると思う。

○国際バカロレア

- ・莫大な人材投資が必要であり、昨今の国際情勢を考えるとグローバル化ばかりが魅力的というわけではない。慎重に議論すべきではないか。
- ・導入することで制約条件が多くなるのではないか。学校教育の中で、他国の文化に触れる機会を増やせばよい。語学に加え、世界史や地理など教科横断的な授業を行い、富山県をグローバル化教育の先進県と位置付けられるような特色ある取組みに挑戦してはどうか。
- ・専門的な教員や施設設備の充実、多額の予算等を考えると県立高校では設置が難しいのではないか。グローバルコースのようなところで、英会話力を高めながら探究活動に力を入れる方が適しているのではないか。

(文責 県立学校課)